

思のあらわれだと思えます。この保育園では、食育にもとても力を入れておられて、それを地域にも広げていこうとしています。公立はまだまだ生ぬるいなと感じています。

園児との交流も、公立では勝手にできませんが、保育所の子は朝から夕方までほとんど保育園だけの生活で、地域とのつながりが薄いので、保育園にも利点があると思えます。園庭開放で、お昼寝のときにうるさいとか、いろんな苦情もありましたが、相互の信頼関係、話し合いで改善していきました。

○山縣 今の質問は非常に重要なポイントですが、一方で、在園児の保護者が地域活動を必ずしも好んでいない。限られたスタッフがそちらにとられると、自分たちの子どもに対して手薄になるとか、危険があるのではないかという声があるのも事実です。

○井野 実際、最初そうだったのですが、理解を求めるためにお話をしたり、土曜日の活動は親も一緒に活動する。ともに育つという双方の理解だと思えます。

○山縣 小学校は同じ学校に行く可能性が高いわけですから、親の視点でなく、子どもの視点で見ていくことが重要なのではないか。今、放課後対策が、すべてを対象にするか、従来の学童保育型でやるかということで、保護者も結構割れています。子どもは同じ小学校に行っていますから、何で分かれているか子どもはわからない。

○参加者 堺市の子ども青少年企画課職員です。今の岡本さんの活動の状況があればお願いしたいことはいっぱいありますが、最初の時点で行政的な施策として取り上げた富田林市の職員は勇気があったと思えます。短時間で事業展開が広がっているというところで、担い手の不足はないのですか。お金やマンパワーの問題で、行政でできることは限られますので、地域の力のあるところと協働していきたいのですが、環境問題でも、福祉問題でも、お願いするところが1つに集中しがちで、手いっぱいだと聞きます。新しい担い手を発掘、育成する取り組みもやっておられるのですか。

○岡本 市役所の職員の勇気に関しては、どこへ行ってもそう言われます。

担い手は、いろんなところに足を運んで、学生ボランティアとか、民生委員とか、近所の人とか、利用者に、今度こんなことをしようと思うので、一緒にしませんかという声かけをしてきました。

行政との協働は一緒に汗をかけるかどうかで、あくまでも市の事業ですから、任されるだけでは嫌で、頼まれもしないのに、「ひろば」の報告を毎日ファクスで送っています。それは数字よりも楽しみだと言ってくれているので、そういうことで協働を進めています。

○山縣 今、スタッフは何人ぐらいいますか。過去通算して、どれぐらいのスタッフがか